

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2024年9月1日 発行
(通巻 502 号) 定価 100 円

現代座レポート No. 99

- ・「出航」の稽古がはじまりました (1)
- ・「誰でもできる朗読教室」の活動 長谷川葉月 (2)
- ・クリスタルボウル音浴会 ヨガ教室：志野 (3)
- ・「木村快とのおしゃべり会」 木村快 (4-5)
- ・「希望舞台」さよなら公演 (6)
- ・ハトノス公演『Pica』 青木文太郎 (7)
- ・お知らせ・会館日誌・会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町5丁目13番24号 TEL 042-381-5165 (代) FAX 042-381-6987



「出航」の稽古がはじまりました

「出航」の稽古が始まりました。現代座の次回公演は「出航」です。この芝居は1981年に初演し、何回か再演を重ねてきました。今回は35年ぶりの公演になります。

作者の木村快はパンフレットに書いています。

「いったんは海から逃げたそうとした漁師たちが、結局は良くても悪くても自分の生きる場所は海であることを知って、ふたたび海にいどむ姿をわたしは見たかった。その船出はきつと悲壮なものでは

なく、共通の運命を自覚することによって、孤立から脱却し、かつてはおびえた海に、生きるためのあらたな戦いをいどむ新しいロマンが息づいているはずだ。

人間は連帯することによってもっと強くなれる。そして強い人間にしか環境を変革することは出来ないのだ。わたしはそう思いたい。わたし自身のために、わたしにつながる仲間や、仲間の子どもたちのために。」

公演は来年2025年2月1日から9日までを予定しています。本格的な稽古は12月から始まりますが、この舞台の中で大きな役割を果たすのが「歌」です。「北の海へ」という主題歌とともに大事なものは「沖揚げ音頭」です。

この歌は昔の「ニシン漁」の作業歌で、漁の様々な場面で息を合わせるために、みんなが歌いながら作業をしたのです。地域ごとに歌詞も歌い方も違いますが、漁師達の中ではずっと歌い継がれてきました。みんなが集まれば、いつもいっしょにうたい、心をひとつにする歌なのです。ただ歌っただけでは、漁師達の気持ちは表現出来ません。

この芝居は出演者も17人と多いので、はじめて現代座に出演してくれる俳優もたくさんいます。12月からの稽古では「歌いこむ」には時間が足りない。ということ、8月から月に何日か歌とソーラン節の踊りの稽古を始めました。

初演からずっと舞台に立っている今村純二さんの指導で、ニシン漁の作業を学び、歌を覚え、踊りを踊ります。2月の本番ではおなかの底から響く、命の叫びの歌になることと思います。ご期待ください。

「出航」公演

2025年2月1日(土)～9日(日) 現代座ホール 参加費 4000 円

「誰でもできる朗読教室」の活動

長谷川葉月

6月26日(水)と27日(木)の2日間にわたり「誰でもできる朗読教室」の2024年1月期生発表会がありました。発表者は28人とかんりの大人数です。いままでで一番多く、発表時間も1人10分までと短くなりました。開始時間も30分早めました。そのため、みなさんの集合時間も30分早くなってしまいました。みなさんきちんとそれに合わせて体調万全で臨んでくれました。

今回は現代座のスタッフが足りないこともあって、



↑6/26(水) 出演「2024年1月期 水曜教室」

(後列左より) 穴戸知美、井上尚子、環笑子、本田典子、手塚修、田中ヒロミ、羽鳥宏子 (前列左より) 大久保節子、疋田麻理子、江花幸子、長谷川葉月(講師)、佐藤忍、高嶋悦代、尾花はるみ

(後列左より) 木谷道宣、五味孝宏、田島千鶴子、小野寺優子、野崎幸代、原悠子、勝木ルミ子、飯田恵理 (前列左より) 早乙女裕子、古明地節子、須藤孝子、長谷川葉月(講師)、野本ゆうこ、今井治江、本橋一夫

↓6/27(木) 出演「2024年1月期 木曜教室」



みなさんには出演するだけでなく、交代で受付をしてみらうことになりました。私のほうでは気軽にお願いをさせていただいたのですが、途端にみんなで話し合いが始まって、「私、この作品は聞きたいんだけど」「じゃあ、この時は私が受付に座るよ」などと打ち合わせて、発表会を内外から支え合って盛り上げてくれたように感じます。

ご来場のお客様の中には新しい顔ぶれもあり、大盛況でした。人前で朗読することは、大いに刺激になったことと思います。人がたくさん集うと、思うように行かないこともたくさんありました。そのハプニングは懇親会の時のネタにして、みんなで笑い合

って締めくくります。初参加の方が、伸び伸びと朗読をしている姿が印象的でした。最初の4カ月間は私が選ぶ課題作品を学びますが、同じ作品が読む人によってこんなに違ってくるのかと毎回驚かされます。その違いを知ることができると、グループで学ぶ良さなのだと思

最近、かつての受講生が、再び朗読を学びに来てくれています。その成長した姿もまた良い刺激になっています。とにかく、朗読は聞くよりも体験したほうが10倍楽しいですから。声を出すだけで気持ちが明るく元気になりますし、知らない本と出会える喜びもあります。今後も変わらず、そのような場を提供していきたいと思

さて、私は2年ぶりに朗読会を開催します。会場は、小金井のお隣り、三鷹市のホールです。楽しんでいただける3作品を選びました。一人でも多くの方に、耳から物語を楽しんでもらえればと思

お知らせ 第3回 長谷川葉月「朗読会」

長谷川葉月の名作一人朗読劇による素晴らしい世界

演出◎松永好訓(映画監督)

「白」芥川 龍之介

「東京地理試験」石田 衣良

「名人伝」中島 敦

2024年11月29日(金) 昼 13:00/夜 18:00

会場 三鷹市芸術文化センター 星のホール

全席指定【前売・当日共】一般3,000円 高校生以下1,500円

前売開始日 9月25日(水)

〈発売〉●J-Stage Navi 03-6672-2421(平日12時~18時)

●三鷹市芸術文化センター1階チケットカウンター

「窓口販売のみ」(10時~19時) (ほか)

《お問い合わせ》●J-Stage Navi 03-6672-2421(平日12時~18時)

クリスタルボウル音浴会

ヨガ教室…志野（東志野香）

2024年8月3日（土）午前と午後の2回、クリスタルボウル音浴会を開催しました。

クリスタルボウルとは『水晶で作られた癒しの楽器です。複数のボウルを同時に奏でるとその振動はさらに響きを倍増させるように広がり意識の深くまで変容をもたらします。その響きは科学的にもリラクゼーション効果が認められています』というもので、ヨガやヒーリングをやっている人たちの間では知られたものです。私は、瞑想の時にクリスタルボウルの音が助けになるという認識でした。

ヨガ講師の先輩で何かとお世話になっている西川尚美先生がクリスタルボウルの演奏をするようになったと聞いて何度か音浴会などに参加しました。そして「これは瞑想やヨガを知らなくても日頃のストレスの軽減に良さそう！現代座会館でもみんなで昼寝しよう！」と思いい立ち、今回の企画となりました。

参加者は20歳代〜80歳代、現代座ヨガ教室の参加者、現代座の俳優、尚美先生のファン、SNSや小金井の街でチラシを見た方などで、ほとんどの方が、クリスタルボウル初体験でした。私はスタッフとして、見守っていました。みなさん何をやるのかどう聞けばいいのか戸惑いながらも気がつけばそれぞれの



奏者：西川尚美先生



まずは、動いて体をほぐします



うつ伏せでリラックス。この後好きな体勢で寝転びました

体験に没入されていたように見えました。

ぐっすり眠りに落ちた方や、音の波を楽しんだ、瞑想状態になった、起き上がったあとすっきりしてやる気に満ちた、なんだかすぐ元気になった、クリスタルボウルにハマった！「慈悲の瞑想」での尚美先生の言葉から、大切な気づきを得たという方もいらっしゃいました。

少し話がそれますが、私はヨガ講師になる前からヨガスタジオと劇場が似ていると感じていました。そしてヨガ講師として活動してみると、やっぱりヨガ講師と俳優の仕事は通じるところがあると感じています。終演後、「楽しかった感動した」と潤んだ目で帰って行くお客様を見送る幸せと、ヨガクラス後「スッキリした、気持ちよかった」という笑顔のお客様を見送る幸せ。そしてなにより劇場と一緒に笑い泣くお客様、客席と舞台との共感、共鳴の感覚。実はヨガも一緒にクラスを受けた初対面の方々との間に一体感が生まれ

ます。今回のクリスタルボウル音浴会ではまさに劇場が生まれていたんだなと感じました。演奏者と客席、客席と客席の共鳴、共感。それぞれ体感した事は違うのに不思議と一体感が生まれていました。尚美先生もその日の夜は爆睡されたそうで、そんなことは初めてだったそうです。現代座会館3階は、クリスタルボウルに向いてるのかもしれない。現代座らしいイベントになって嬉しく思います。改めて、尚美先生と参加してくださった皆様に感謝申し上げます。

次回の現代座会館でのクリスタルボウル音浴会は、2024年11月17日（日）を予定しています。

最後に、現代座でのヨガ教室は2014年9月30日「NPO現代座 東志野香のヨガ教室」というタイトルで始めさせていただき、この日の無料お試し会が私のヨガ講師デビューの日でした。気がつけば10年続けることができました。関わってくださった方々へこの場をお借りしてお礼申し上げます。

「木村快とのおしゃべり会」

劇場文化雑談会

最初は劇団の有志から木村快88歳のお祝いする会というプランだったのですが、木村からは「お祝いはお断りする。だけど、自分は何をすればいいんだろうと考えている時だから、僕に興味のある人となら、自由に雑談したい」そこで「木村快との劇場文化雑談会」ということになりました。

第1回は7月13日(土) 2時から。色々な方が連絡をくださって、2階和室いっぱい14人もの方が集まってくださいました。20年近く前からいつも協力してくださっている方から、はじめて顔を合わす方まで、そして現代座の俳優とスタッフ。

【簡単な自己紹介】

★成り行きでリーダーに

僕はもともとリーダータイプの人間ではない。新



制作座時代からみんなと議論するタイプではなく、いつもみんなの後ろにポツンと立っていて、みんなの成り行きを見つめていた。議論が行き詰まったときだけ「快くんどう思う？」と聞かれることがあるのと、何か頼まれると断る

ことができなかつた。

1964年秋から150人の職業劇団・新制作座が70人の若者たちを人員整理して社会問題となった。理由は「過激派の若者たちが劇団を乗っ取るうとしたらしい」という記事を作り、追い出された若者たちの実状を取材する新聞社はなかつた。

映画演劇労働組合総連合が飛んできて、急遽争議団を結成し、記者会見を開いた。たまたま年長だった僕は総連事務局に説得されて、記者会見に出席することになった。最初は厭だったけど支援者達に説得され、3ヶ月間の約束で名目的リーダー役を引き受けた。しかし、僕にできることはただのまとめ役にすぎなかつた。

1965年3月、みんなで「統一劇場」の名称で出発したけれど何度も潰れかかった。僕としては、「参加者の思想信条は自由であること」と「個人の行動を規約で縛る集団にはなりたくない」。それで良ければと代表者の役を引き受けた。

子どもの頃からみんなの輪の中に入ることがなかつたのは、多分植民地生まれで、基礎的な感覚がみんなとはズレていたからだろう。

★現在の僕は身体障害者を持っている

僕は30歳のとき、稽古中に過労で倒れ、ちゃんとした治療をしなかつたためメニエル病になってしまった。だから耳もよく聞こえないし、方向感覚を司る三半規管の障害で、思うように動けない。そのため、いろんな人と自由に対話することはできるだけ避けていた。

★時代感覚のギャップ

昔の日本植民地朝鮮で生まれ、戦後引き揚げてきて、よりによって原爆で一面焼け野原となった広島市で育つたため、学校の教室もなく、クラスで集まるこ

ともなかつた。

だから人格形成期に培われる基礎感覚は現代社会に生きる人とはかなりギャップがあるだろう。それを承知の上で雑談するといういろいろ発見があるかもしれない。

どんな雑談会にしていくなかは成り行き次第ということ、まず自由に発言して貰った。いろいろな質問や疑問が出てきた。

やはり現代社会で活動している人たちと僕の間には、特に時代感覚のギャップがあることが判った。

そこで第2回は、日本は僕の育つた時代から現代までの間に、どのように変化してきたのか、雑談してみることにした。

第2回は8月10日。用事のある人、連日の猛暑で体調を崩した人も多く、集まれたのは5人。

【引揚者について】

木村が引き揚げ者だと知って、古明地(こめじ)節子さんは、これまで人に話してこなかつた自分の引き揚げ体験について話したいと云う。

—質問— 引揚げってどういう意味ですか？

木村 植民地に住んでた日本人が敗戦で日本に引き揚げてくること。「引揚者」は日常語だった。

(戦時中の「満州国」の地図を広げ)当時、日本の植民地は朝鮮、台湾、樺太、バハマ諸島、満州があり、多くの日本人が暮らしていた。特に「満州」は、昭和6年に日本が軍事的に侵攻して、日本各県の出張所のような日本人移住地を造ろうとしていた。

その頃、植民地のことには「外地」、日本国内のことは「内地」と呼んでいた。

終戦で海外から引き揚げてきた人は320万人。こ

れだけの人が突然日本に引き揚げてきて、しかも破壊された国土で新しい生活を始めなければならなかったわけだから、日本中が大混乱だったと言っている。

戦場に送られた日本軍兵士もほとんど復員してくる。だけど新しい仕事なんかないから、混乱しながら新しい社会を作らなくてはならない。だから僕にとっては戦後十年くらいは混乱のイメージしかない。

—— 戦場で亡くなった人はどれくらい？

戦地に送られて死んだ人は230万人と言われてる。だから一般家庭にはたいがい引揚者や戦死者がいた。

★古明地（こめじ）さんの引揚げ体験

古明地節子さんは昭和17年6月生まれ。だから終戦の時は父と母にくっついていただけで何も判らない。

父は大正元年生まれ、早稲田大学卒業で、そのまま陸軍の砲兵隊に召集されて満州に行つてたらしい。父の体の中にはいくつも銃弾の破片が埋まつていて、小さい頃は触つてみたりすると、そこだけ硬いの、「痛いからやめなさい」とか言われながらも、その感触は不思議だった。それでも父は長命で90歳以上まで生きた。

その後、どのタイミングでかはわかりませんが、満州と中国をつなぐ「華北鉄道」で働いていた。

★ロシア軍の侵入

昭和20年には北京駅の助役をしていたけど、終戦直前、突然ロシア軍が満州に攻め込んできた。

—— なんでロシア軍が？

木村 日本とロシアは中立条約を結んでいたんだけど、アメリカとイギリスとロシア（ソビエト連邦）は日本が降伏したあと、日本の領土をどのように分割するかを相談していた。これは「ヤルタ会談」といわれていたけど、それで日本が降伏する前に攻め込んでお

かないと、当時日本領だった樺太やアリューシャンの獲得が面倒になるというんで、一方的に攻め込んできた。

—— 戦争に負けた時、女の子はみんな坊主にしたってほんとは？

古明地 そう。ロシア軍が来た時は、女の子は連れて行かれるから大変だと、みんな短く髪を刈つたのよ。

わたしたちは日本へ引き揚げるため、北京（ペキン）から引き揚げ船の出る満州の港まで、家族で歩いて移動しなくてはいけないの。山越え村越え、野宿しながら歩いて行くの。誰も守ってくれないから、お金を盗られないように、みんなお腹に巻いたりしてたわね。

★残留孤児

古明地 今では想像も出来ないけど、連れてる子どもを飢え死にさせる家族もあったからね、中国人の農家がお金を出して子どもを引き取るケースもあったの。働く子どもが欲しかったのよね。だから中国残留孤児のニュースなんかを見ると、本当に可哀想に思った。

母に「こういうニュースはちゃんと見てあげなさいよ」と再三言つたけれど、母は絶対に見なかつたわ、辛すぎるって。ところで、どこから船に乗つたんだろう？

木村（満州地図を見ながら）終戦の直前、満州を管理していた陸軍第六師団は突然南方へ移動したからね、何万という一般人だけが取り残されてしまった。そして満州の海側、ここに口島という出島がある。ここへ向かって逃げたんだ。

古明地 船に乗る前に、3歳下の妹、アキコちゃんが亡くなつてしまつて……。なんとか木切れを集めて火葬できたから、遺骨を持って帰ることができたけれど。乗船してから亡くなると、水葬といつてね、遺体をそのまま海中に沈めて、船を三回転させて終わり。……それでどこに着いたんだろう。

木村 一般的には長崎県の佐世保軍港だが、あるいは瀬戸内海に入つて、山口県の大竹にも海軍の港があった。

古明地 父の出身が長野県の上田市だったので、汽車で向かつたけれど、その途中、広島近辺を通つたときに汽車から見える景色が一面の焼け野原。みんな窓から身を乗り出して……。そのまったく何にもない広島街というか焼け野原を見た。本当にまったく何も無いの。

【軍事都市・広島について】

木村 ほんとにそうだったねえ。今は「原爆」といえば判るけど、占領軍が「原子爆弾」という名称の使用を許可したのは昭和25年だったから、それまでは「ピカドン」とか「ピカ」って言っていたね。

僕の本籍地は「広島市千田町二丁目」爆心地だ。1960年頃、統一劇場の公演で広島へ行つたことがあるけど、もつビルが建ち並んだ知らない街だった。

広島は明治27年（1894年）、日清戦争の時には、戦争を指導する「大本営」が置かれた軍事都市である。兵士が戦地へ向かうときは、まず広島市に送り込まれ、広島の子品港から戦場へ向かつた。だから街全体が軍隊と関係の深い街だった。

僕の父も昭和19年に宇品港から硫黄島に送られて死んだ。こうしたことは教科書には書いてないけど、知つておいて欲しい。



◆ 『木村快のおしゃべり会』は、毎月やる予定です。興味のある方はどなたでも気楽にご参加下さい。開催日は、現代座・木下までお問い合わせください。

希望舞台

さよなら公演

7月19日（金）に「希望舞台」のさよなら公演が行われました。

「希望舞台」は1985年に「統一劇場」から独立し、由井数を代表に新しい劇団としてスタートしました。



希望舞台【昭和からのメッセージ・居酒屋夢子1969】出演者とスタッフ
「なかのZERO・小ホール」にて

「ピアノストとカラス」「あした天気になれ」「豆腐屋」「天までとどけ」「青い空が見えるまで」「おばあちゃん」「焼け跡から」などの創作劇を創り出してきました。並行して1997年からは、水上勉原作「釈迦内転唄」を一千回公演目指してやり続けて来ました。

「希望舞台」が独立してから20年以上はほとんど劇団としてはお互いに関わることも無く、お互いに公演を観ることもありませんでした。しかし、現代座の中でいろいろ問題が起きた時には、由井さんがいつも力を貸してくれました。

現代座がNPO法人になり、全国各地での公演が難しくなつてからも、「希望舞台」は日本中を「ツッコ」と公演して回っていました。制作の玉井徳子さんの力が大きかったと思いますが、その活動を見ると「統一劇場の劇場づくりは希望舞台がやり続けている」と励まされてきました。

2012年に財政的な困難を抱えた「希望舞台」は、それまで借りていた事務所をやめて、現代座会館に本部を移しました。たった机ひとつの事務所ですが、それからは稽古も会議も現代座会館で行い、NPO現代座の活動にも参加してもらいました。

しかし2020年、コロナの感染拡大で予定していたすべての公演の中止を余儀なくされました。その上、制作の玉井徳子さんが体調を崩して入退院を繰り返して、動けなくなっていました。

それでも「新しい芝居を創りたい」と2022年に新作「昭和からのメッセージ・居酒屋夢子1969」を創り、頑張つて公演しました。

しかし玉井さんは老人施設に入居し、責任者の由井さんの体調も思わしくなく、ついに「さよなら公演」をすることになったのです。

現代座としても出来るだけの応援をしようと、受付の手伝いやスタッフとして協力しました。

「さよなら公演」には全国各地から支持者が集まってくれました。元劇団員たちも駆けつけてくれました。ロビーでは施設にいる玉井さんとテレビ電話で話せるようにしました。

公演の最後に由井さんが舞台に立つて挨拶しました。「コロナの影響もあって、活動できなくなつて残念です。しかし、この仕事は本当は必要な仕事だと思っています。若い世代が活動を引き継いでくれたらと願っています。」

客席からは大きな拍手と花束がおくられました。



花束をもらう代表の由井数

ハトノス公演『Pica』

青木文太朗

2024年6月13日(木)〜16日(日)に、現代座ホールでハトノスの演劇公演『Pica』を上演しました。ハトノスは私が現代座の活動と並行して運営している演劇団体であり、これまで戦争などの過去の出来事と、それらの現代での語られ方に注目しながら、「歴史と記憶」について扱った演劇を製作してきました。特に私の出身地である広島を扱うことが多く、昨年5月にも、広島を走る路面電車と原爆からの復興についてを扱った『始発まで』をリーディング形式で上演しました。

今回上演した『Pica』は、「黒い雨」訴訟を題材に、「黒い雨」体験者たちが現代まで生きてきた足跡や、現代において「黒い雨」の取材を進める記者の姿などを描いた群像劇です。

私がこれまで「広島―原爆」について学ぶ中で多く感じてきた「分断」を痛々しいほどに感じる「黒い雨」訴訟というテーマを、今回は七夕物語の構造を拝借しながら演劇として再構築していきました。一年に一度しか会うことのできない織姫と彦星、その二人を繋ぐカササギ(=Pica)たち。現実においてそれぞれに当てはまるのはいったい誰なのだろうか、そんなことを考えながら制作を進めました。



ハトノス『Pica』舞台写真 (撮影: 古元道広)

作劇にあたり、「黒い雨」を追い続けているフリージャーナリストの小山美砂さんに協力を仰ぎ、史実の確認や表現についての相談などで力を貸していただきました。小山さんは集英社から『黒い雨』訴訟」という新書を出版しており、私と同年代でもあります。本を読んだとき、そこに込められたエネルギーに圧倒され、勇気をもらったのをよく覚えていますし、だからこそ今回一緒にできたことは、本当に嬉しかったです。

劇中に齋藤ちやくらさんによるギターの生演奏をとりのりれたり、袖幕を使わない形式の舞台にしてみたりと、団体として初めてのことも多い中、現代座メンバーをはじめ様々な方に助けられながら、なんとか無事公

演を迎えることができました。

最終的に、ハトノスとしては最多となる約330名の方に観劇していただきました。お客さんからは劇の内容についての感想に加え、「7月7日」や「8月6日」をどのように過ごすのか、あらためて考えたいという旨の声も多く寄せられました。上演が終わってからも大切なものとして残る公演になれたのであれば、とても嬉しく思います。

次回公演は未定ですが、細々と活動が続けていきますので、これからもよろしくお願ひします。

お知らせ

TEL : 042-381-5165
FAX : 042-381-6987

心をつなぐバラエティ劇場

長野県公演

9月21日(土) 14時 安曇野市ホワイトトークハウス
 22日(日) 14時 松本市山の子保育園
 23日(月) 14時 上田市真田「長谷寺」本堂
 24日(火) 19時 長野市
 ホテルナガノアベニュー地下「Two-five」

現代座3F小ホール公演

公演日：10月26日(土)
 27日(日)

時間：14:00開演

参加費：3000円(予約制・全席自由)

予約・問合せ 今村ひで子 090-2553-8537
 今村純二 090-7246-2004

現代座 TEL 042-381-5165 FAX 042-381-6987

今村ひで子・今村純二の企画で「バラエティ劇場」が進行しています。
 出演者は、今村純二・林操、そして「花かご」の熊倉正博・木村康恵の4名。
 林操のひとり語り「すまねえな」(林みさお作・岡田京子音楽)を軸に、第1部「歌とおしゃべりのお楽しみタイム」では、平均年齢81歳の男3人組が、若かりし時代に思いを込めて、懐かしい歌を歌います。
 9月に長野県で4力所の公演を行い、10月には小金井の現代座3F小ホールで2日間の公演を予定しています。



現代座会館 6月～8月 活動日誌

6月2日 現代座会議

19日 ワーカーズ新人研修

23日 「現代座レポート98号」発送作業

7月6日 現代座会議

13日 「木村快との雑談会」

14日 「川崎平右衛門フェスタ・所沢」に参加
 8月10日「木村快との雑談会」
 第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

【現代座ホール】

6月6～16日「ハトノス」稽古・公演

7月15～18日「劇団希望舞台」稽古

21～28日「劇団アルファ」稽古

8月6、7日「スタジオポラード」稽古

17、18日 現代座「出航」稽古

8、22～25日「劇団青春の庭のうさぎたち」稽古・公演

26～28日「ミュージカルカンパニーふるまやら」稽古

【二階小ホール】

6月1日、17日、24日、7月22日、8月26日

小金井女声合唱団

6月26、27日「誰でもできる朗読教室」発表会

7月10、19、26日、29、8月1日「スタジオポラード」稽古

20、21日「千夜一夜座」稽古

13日「劇団希望舞台」稽古

28日 津田「リトルコンサート」

8月3日「クリスタルボウル音浴会」

8、9日「バラエティ劇場」稽古

隔水曜・木曜日 朗読教室

毎火曜・木曜日 ヨガ教室

【二階サロン】

6月8日 緑町第2町会役員会

7月4、5、11、12日「バラエティ劇場」稽古

27日 緑町第2町会役員会

毎水曜日 熟年会(7、8月は休み)

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円
 協賛会員 10,000円(1口以上)
 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座